

八千代市人口ビジョン (令和2年改訂版) 【概要版】

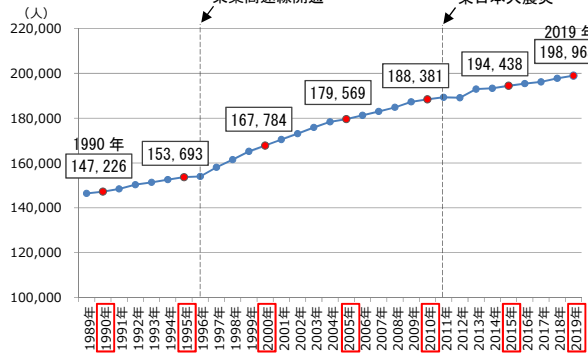
期間：2060年まで

背景と趣旨

本市の人口は増加を続けており、この傾向は、今後5年程度続くと見込まれている。しかし、将来的には、全国的な傾向と同様、人口減少に転じる予測となっている。このようなことから、本市においても、人口動向を分析し将来展望を示す「八千代市人口ビジョン」を2016年3月に策定したところである。策定から4年が経過し、この間に平成27年国勢調査の結果、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成29年推計）」及び「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」が示されたことから、改訂を行うものである。

現状

【総人口の推移】

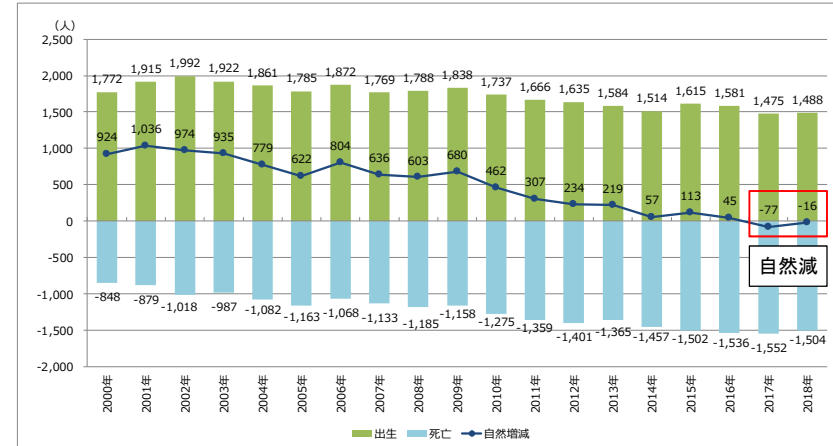


本市の総人口は、1967年に市制が施行されて以来、東日本大震災の影響を受けた2011年から2012年を除き増加を続けており、2019年3月末時点では198,965人となっている。

資料：住民基本台帳

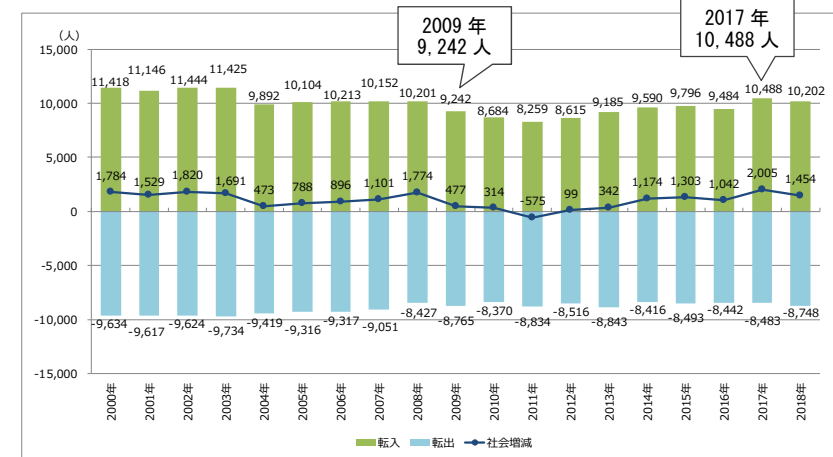
【出生・死亡数の推移】

出生数から死亡数を差し引いた自然増減数は、出生数の減少、死亡数の増加に伴い、低下が続き、マイナス（自然減）に転じている。



【転入・転出数の推移】

本市への転入数は、2009年以降1万人を下回っていたが、2017年には再び1万人を超えている。

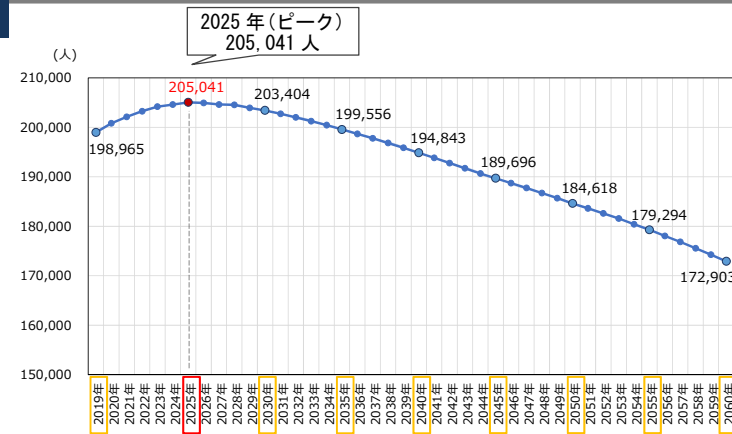


資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

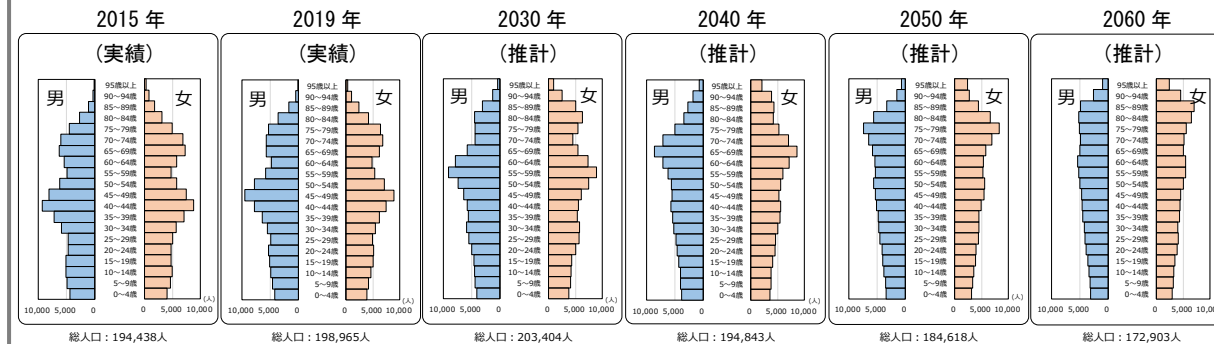
将来人口推計[基本推計]

【八千代市将来人口推計結果】

本市の総人口は、2025年までは増加する見込みとなっているが、その後は、全国の傾向と同様に、減少に転じることが見込まれている。



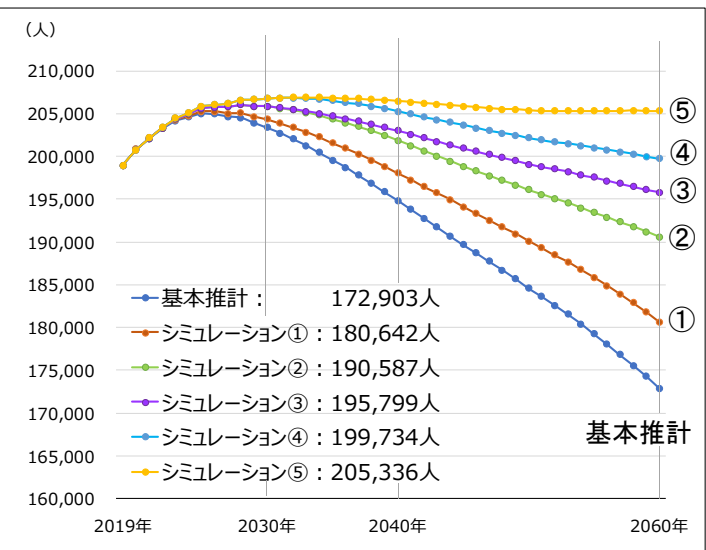
【人口構成推移】



人口推計シミュレーション

自然増減、社会増減の変化が将来人口に及ぼす影響を検証するため、基本推計を基に、出生率及び純移動率に一定の仮定を置いた将来人口推計の試算（シミュレーション）を行った。

【シミュレーション結果】



シミュレーション① (人口流入継続)	一定の地区で純移動率の段階的取束を解除した場合
シミュレーション② (出生率1.87まで上昇)	合計特殊出生率が2030年に希望出生率(1.87)まで上昇し、その後も1.87が継続した場合
シミュレーション③ (出生率2.07まで上昇)	合計特殊出生率が2030年に希望出生率(1.87)まで上昇し、その後2040年に人口置換水準と同程度(2.07)に達した場合
シミュレーション④ (人口流入継続 + 出生率1.87まで上昇)	一定の地区で、純移動率の段階的取束を解除し、かつ合計特殊出生率が2030年に希望出生率(1.87)まで上昇・継続した場合
シミュレーション⑤ (人口流入継続 + 出生率2.07まで上昇)	一定の地区で、純移動率の段階的取束を解除し、かつ合計特殊出生率が2030年に希望出生率(1.87)まで上昇し、その後2040年に人口置換水準と同程度(2.07)に達した場合

目指すべき将来の方向

自然減抑制対策

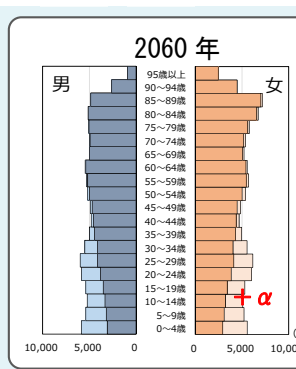
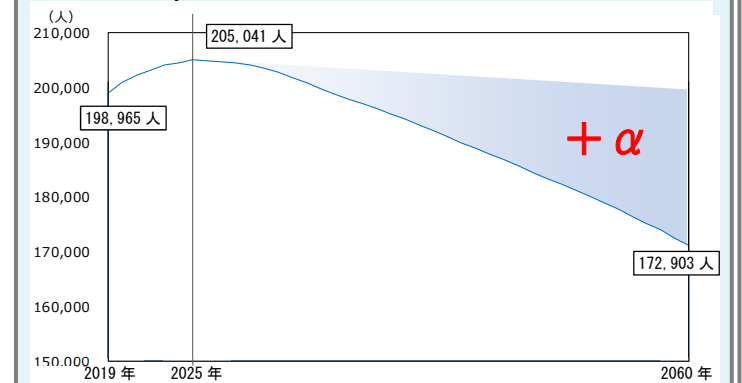
結婚・出産については、個人の自由が最優先されるべきであることを前提とした上で、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるべく各種施策を実施し、現状の合計特殊出生率(1.40)を向上させることを今後の目標とする。

社会増加継続対策

今後は、新しいひとの流れをつくる施策や安定した雇用の創出、時代に合った環境整備等の各施策を実施し、本市においても将来予測される人口減少(2060年約17万3,000人)を、最小限に抑制することを目標とする。

人口の将来展望

2060年において、将来人口推計値である約17万3,000人を上回ることを目標とする。



2019年
198,965人

↓

2060年
約173,000人 + α